

宇陀市
うたの古市場周辺地区
まちづくり基本構想

平成29年3月

目次

1. 構想の目的等と位置づけ	3
1-1 構想策定の背景と目的	3
1-2 対象地区の位置および区域	4
1-3 基本構想の位置づけ	5
2. 対象地区の沿革	6
3. うたの古市場周辺地区の現状と課題	7
3-1 生活面からの現状と課題	7
3-2 観光面からの現状と課題	12
3-3 産業面からの現状と課題	15
3-4 まちづくりの課題図	18
4. まちづくりのコンセプトと基本方針	19
4-1 コンセプト	19
4-2 まちづくりの方針	20
4-3 まちづくりの施策体系	21
4-4 まちづくり構想図	22

1. 構想の目的等と位置づけ

1-1 構想策定の背景と目的

- ・宇陀市菟田野地域は、奈良県の中東部の山間に位置し、その歴史は古く古事記や日本書紀にも地名が出てくるなど古代ロマン漂う町で、国宝や重要文化財なども随所に点在している。人口4,000人の小さな地域であるが、産業面では、磨き丸太・高原野菜のほか、毛皮革産業で全国的規模を誇っている。
- ・また、「カエデの郷ひらら」や国宝「宇太水分神社」など、豊かな自然や記紀万葉を感じさせる観光資源が多く、さらに有効に活用できる可能性を秘めている。
- ・しかしながら、人口減少と高齢化が進み、かつ、地場産業である毛皮革産業も製造品出荷額・事業所数が低下し、地域の活力低下が顕著となってきており、地域の活性化に向けたまちづくりを推進することが喫緊の課題となっている。
- ・こうした状況を踏まえ、本構想は、奈良県と宇陀市が締結した「奈良県と宇陀市とのまちづくりに関する包括協定書」（平成27年12月25日）に基づき、「うたの古市場周辺地区」を対象として、地域の特性を活かしながら市全体の利便性を向上させ、地域の活性化につなげるためのまちづくりの考え方を「まちづくり基本構想」としてとりまとめたものである。

<大和宇陀神武天皇御聖跡御図絵>

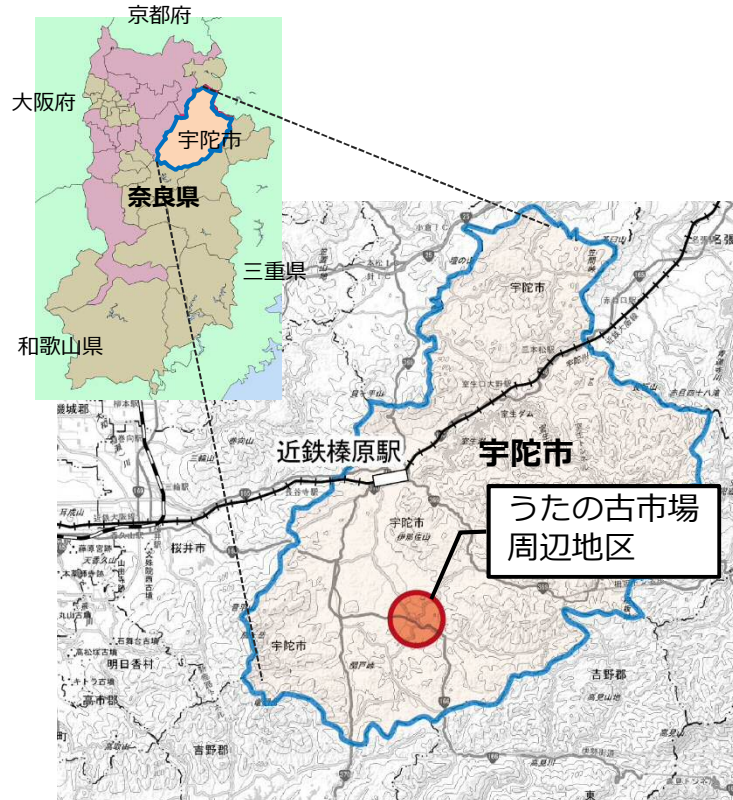


資料：宇陀市ホームページ

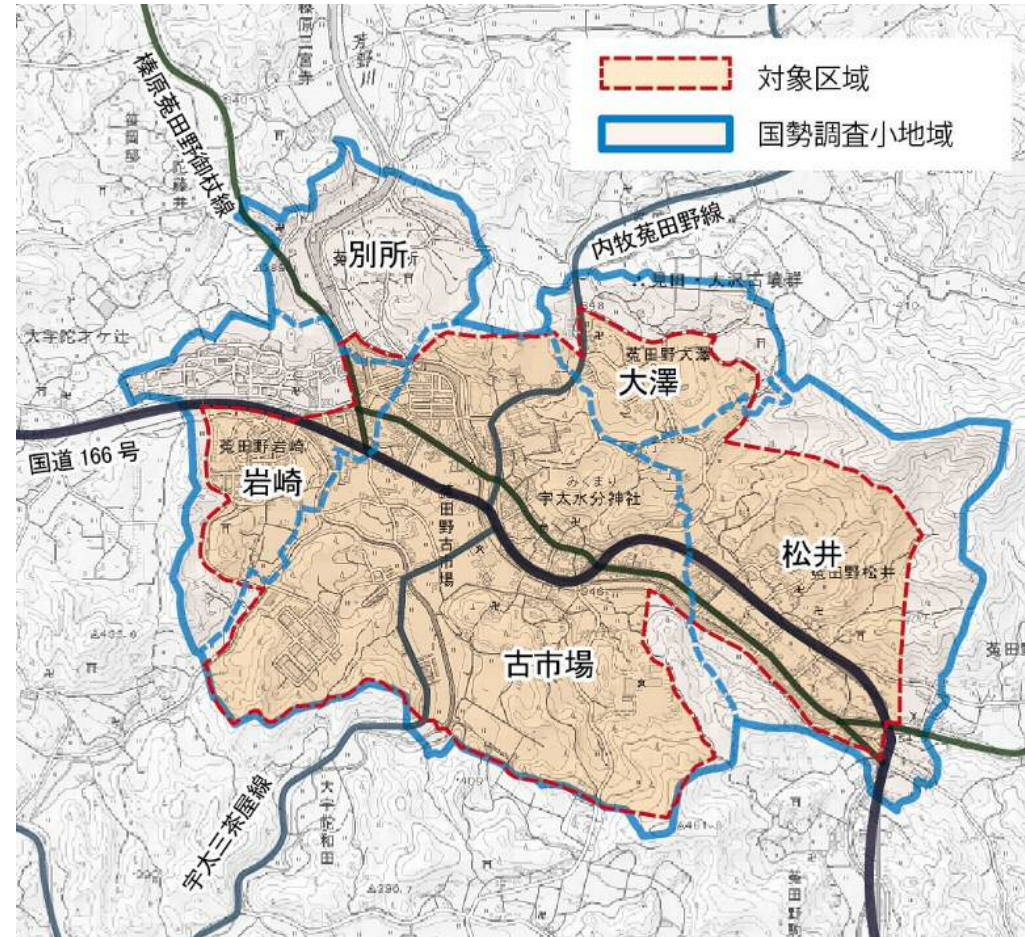
1-2 対象地区の位置および区域

- ・本基本構想の対象地区となる「うたの古市場地区」は、宇陀市の中心部（近鉄榛原駅）から約7.5km南に位置している菟田野地域の中心部で、国道166号と主要地方道榛原菟田野御杖線、県道宇太三茶屋線、県道内牧菟田野線の交差部を中心とする範囲とする。

<対象地区の位置>



<対象地区の区域>

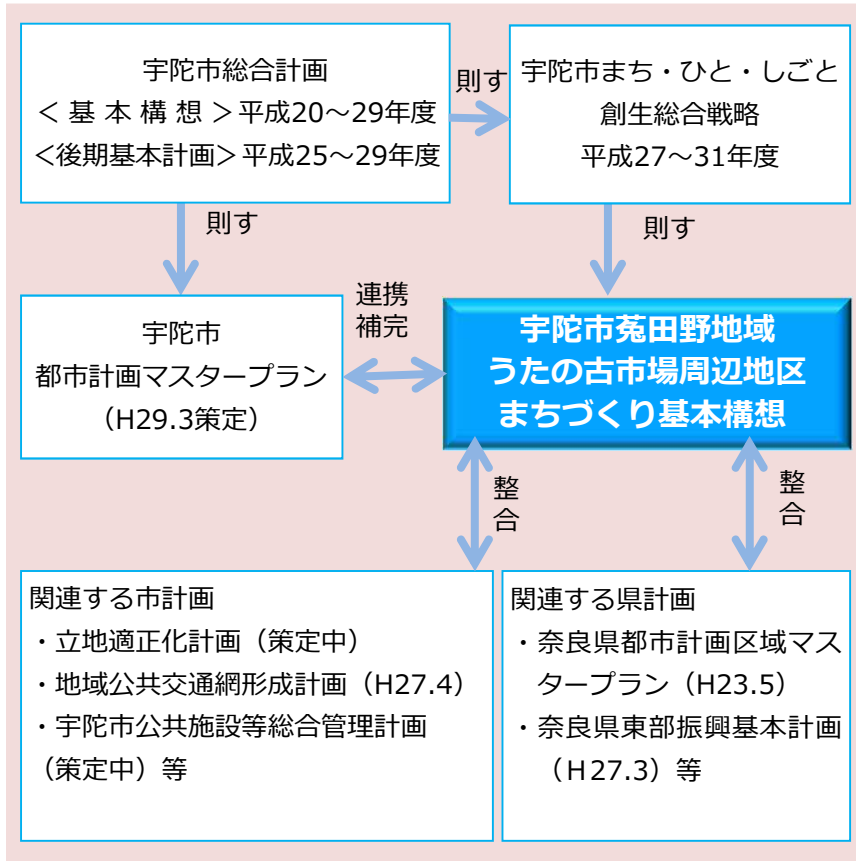


※対象地区の分析にあたっては、国勢調査小地域である菟田野古市場・岩崎・大澤・松井・別所の5地区で分析を行う。

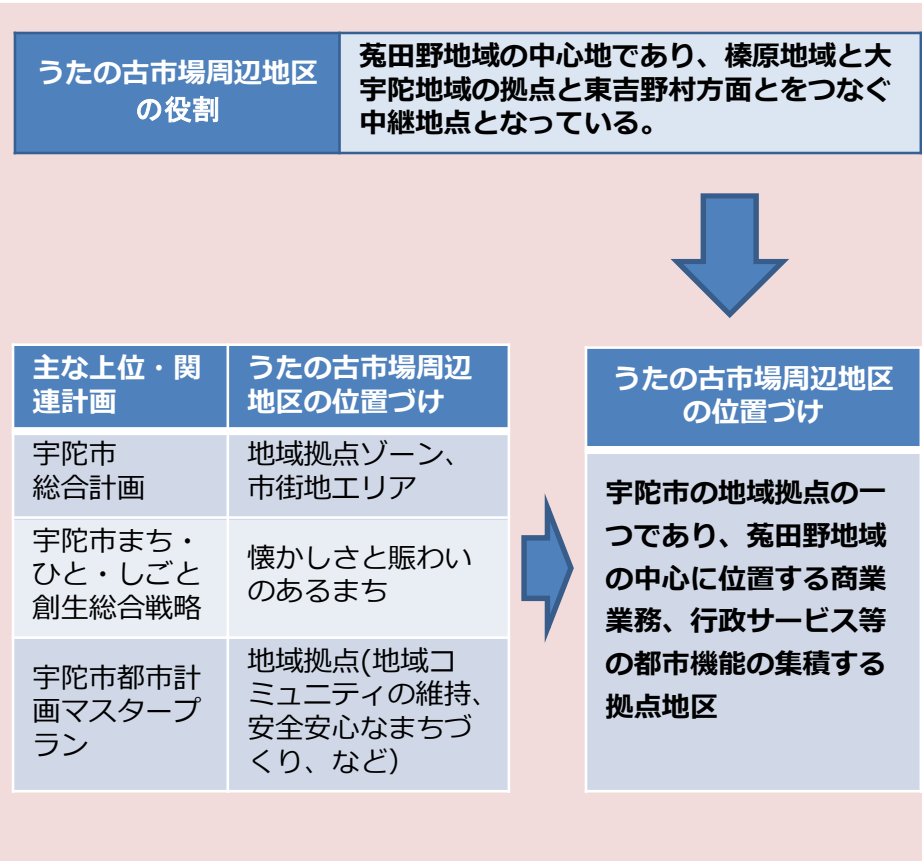
1-3 基本構想の位置づけ

・本構想の位置づけ、上位計画関連計画を踏まえた対象地区の位置づけは、下記に示すとおりである。

＜基本構想の位置づけ＞



＜上位関連計画を踏まえた対象地区の位置づけ＞



2. 対象地区の沿革

①古代

- ・宇陀の地は、古くから「古事記」「日本書紀」に記載がみられ、**神武伝承の舞台**として知られている。
- ・「万葉集」では、**柿本人麻呂の歌等**にも詠まれており、**古代における王朝との関わり**をうかがうことができる。

②平安時代～

- ・平安時代以降、この地域は**荘園として興福寺の支配下**にあった。南北朝時代から戦国時代にかけては、伊勢国司北畠氏の勢力が徐々におよび次第にその支配を受けるようになった。

③江戸時代

- ・江戸時代には、**宇陀松山藩として織田氏4代の統治**の後、幕府の直轄地となっている。

④明治時代～

- ・明治22年の町村制の施行により、宇陀郡は1町11村から構成されることとなった。
旧菟田野町は、昭和31年に宇太町と宇賀志村の合併で誕生し、その後、**平成18年に旧大宇陀町・旧菟田野町・旧榛原町・旧室生村の合併により、現在の宇陀市**が誕生した。



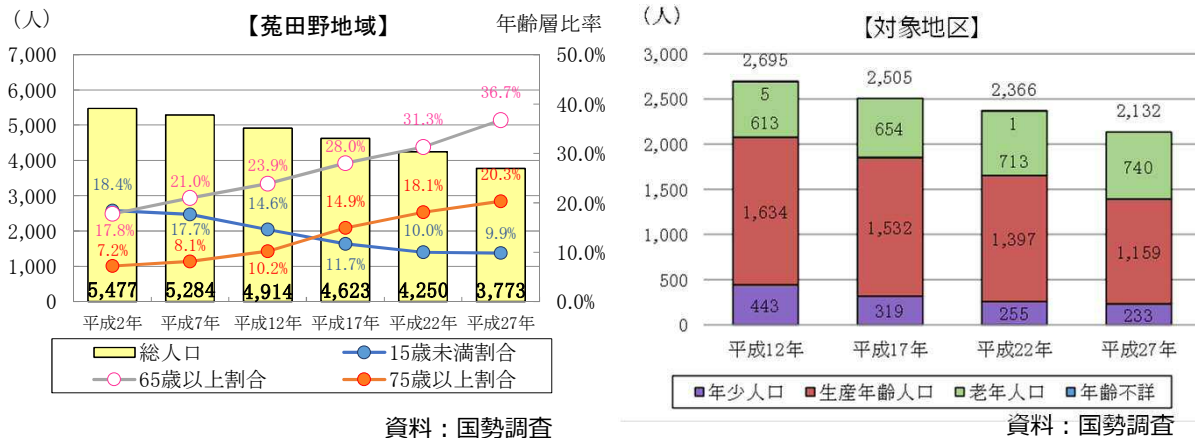
3. うたの古市場周辺地区の現状と課題

3-1 生活面からの現状と課題

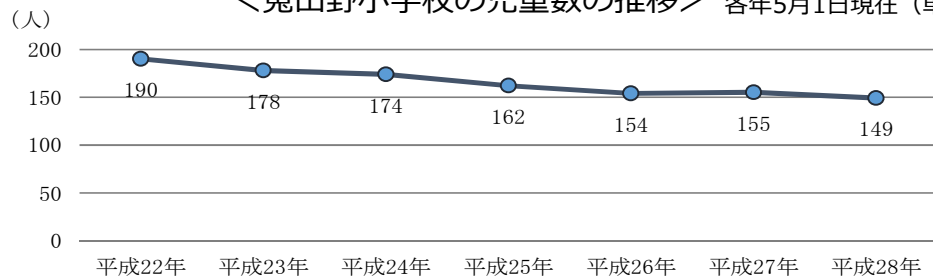
(1) 人口特性

- ・菟田野地域の人口は、市全体と同様に減少傾向であり、平成27年では約3,800人となっている。また、高齢化率も上昇し平成27年では36.7%、年少人口率は減少し平成27年では9.9%となっている。
- ・菟田野地域の少子化に伴い、菟田野小学校の児童数は減少し、平成28年は149人となっており、平成22年の190人からは41人の減少となっている。

＜菟田野地域および対象地区の人口推移＞



＜菟田野小学校の児童数の推移＞ 各年5月1日現在（単位：人）



【課題】

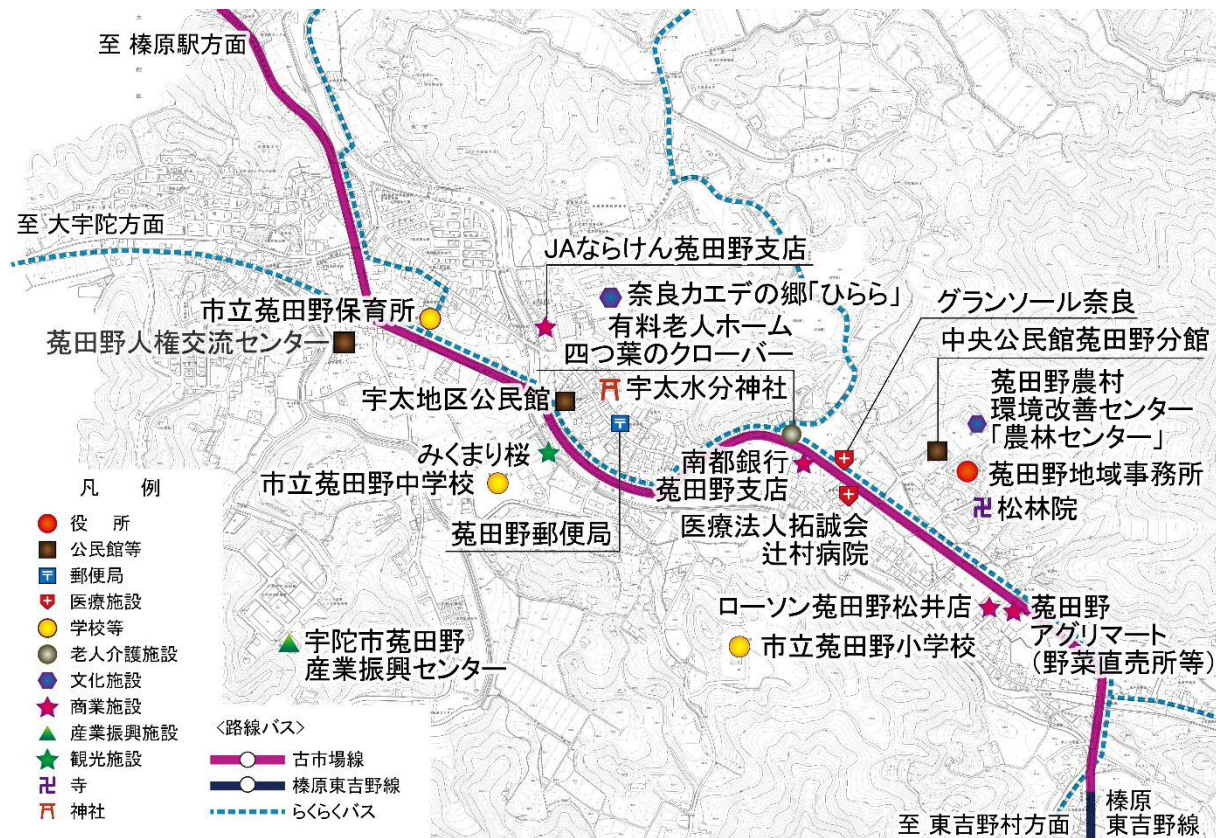
- ◇人口が減少する中で、地区の維持やまちづくりの担い手不足への対応
- ◇このため、高齢者のまちづくりへの参画を如何に促すかの検討
- ◇増加する高齢者の暮らしを如何に支援するか
の検討
- ◇生産年齢人口の減少に伴う年少人口の減少への防止方策（子育て施設の充実など）の具体化

3-1 生活面からの現状と課題

(2) 生活関連施設

・うたの古市場周辺地区には、**菟田野地域の中心部**として、**菟田野地域事務所**、**菟田野人権交流センター**、**宇陀市菟田野産業振興センター**、中央公民館菟田野分館、宇太地区公民館などの公共施設をはじめ、菟田野中学校、菟田野小学校、菟田野保育所の教育施設等、辻村病院、グランソール奈良の医療機関、ローソン、菟田野アグリマート、南都銀行菟田野支店、JAならけん菟田野支店など商業・金融施設等が立地している。

＜菟田野地域の主要施設立地状況＞



【課題】

◇複数の公共施設が立地しているが、十分に活用されておらず、相互連携も不十分である状況への対応

◇人権交流センターの老朽化、役割の変化への対応

◇子育て施設（菟田野保育所）の老朽化への対応

◇商業施設は立地しているが、買い物に便利な店舗不足（このため、買い物先は、大宇陀や榛原に出ることが多い：p10参照）。

◇主要施設が集積しているが、賑わいが少ない現状への対応

3-1 生活面からの現状と課題

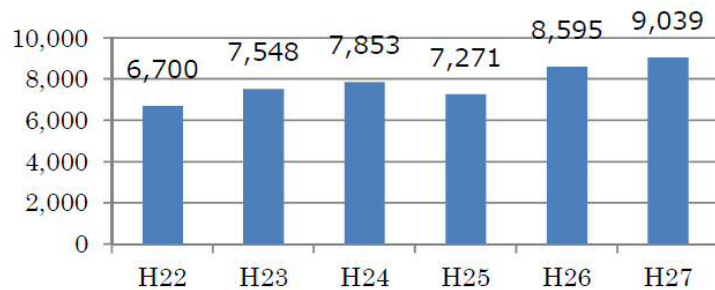
【菟田野人権交流センター】

- ・菟田野人権交流センターは、昭和54年に老人福祉センターと地区体育館、隣保館が併設された多機能型の先進施設で、菟田野地域の人権の拠点として活用されてきた。現在も老人クラブや人権文化講座等、様々なサークルや団体活動に活用され、近年、利用者は増加※している。
- ・なお、人権交流センター前の交差点形状が悪いため、国道166号および主要地方道榛原菟田野御杖線から直接人権交流センターにはアクセスできない。

＜人権交流センター＞



＜人権交流センターの利用者数推移＞



※利用者増加の理由としては、高齢化により余暇時間の増加、貸室などニーズに合った人権文化講座の開設や地域内の他施設に比べ部屋数が多いこと、駐車スペースが広いこと等によると考えられる。

＜年間利用状況＞

	団 体	人 数
隣 保 事 業	7 教室	1,843 人
貸 館 事 業	8 団 体	3,872 人
	11 団 体	2,530 人
自 治 会	6 団 体	746 人
相 談 事 業	心 配 ごと ・ 人 権 ・ 行 政 相 談	48 件
合 計	32 団 体 (教 室)	9,039 人

資料：人権交流センター改築基本構想（案）

【課 題】

◇建設から約40年を経て施設・設備の老朽化が著しく、耐震化されておらず、バリアフリーにも対応していない。このため、改築が必要となるが、その改築の具体化

※現在、改築基本構想策定中

＜基本コンセプト＞

『みんなが、つどい、つながり、ささえあえる
ヒューマンコミュニティ
プラザうたの』

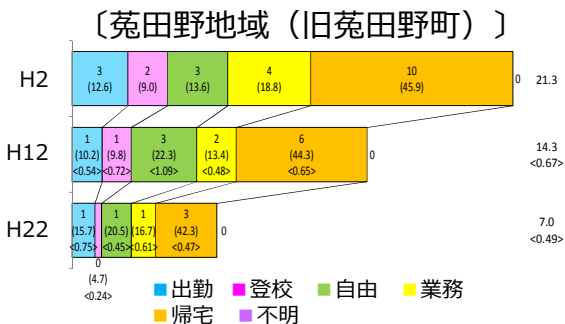
◇改築にあたっては、観光機能など地域に活力を見いだすための新たな機能の付加の検討

3-1 生活面からの現状と課題

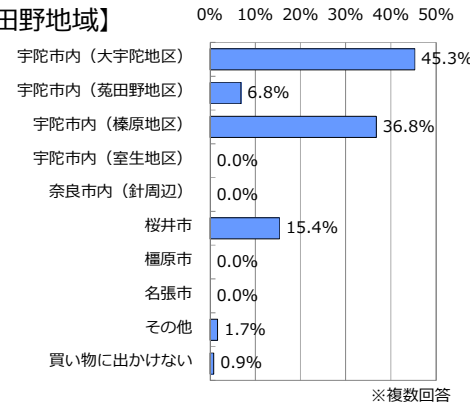
(3) 交通流動

- 菟田野地域では人口減少以上に発生集中量の減少が大きく、この20年間で約7割の減少となっている。この理由としては、少子化に伴う登校の減少、高齢者割合の増加に伴う自由目的の減少があげられる。
- 菟田野地域の食料品・日用品の買い物動向をみると、大宇陀地域が45%、榛原地域が37%と多く、地元の菟田野地域は7%にとどまっている。交通手段は、自家用車が88%となっている。

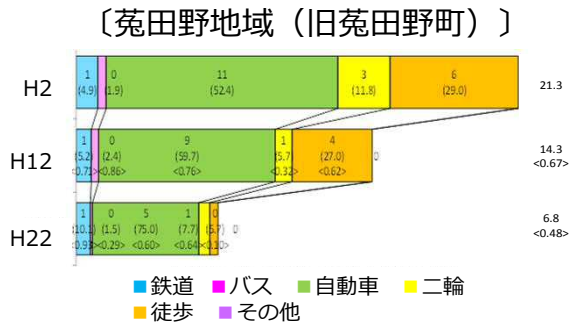
<目的別発生集中量の推移【平日】>



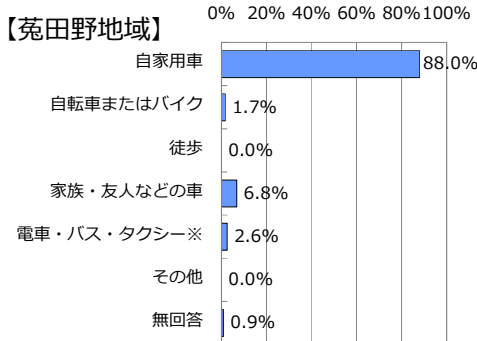
<食料品・日用品の買物の場所【菟田野地域】>



<代表交通手段別発生集中量の推移【平日】>



<買い物時の主な交通手段【菟田野地域】>



資料：近畿圏パーソントリップ調査
単位：千トリップ/日 () は代表交通手段構成比 () は10年前からの伸び

資料：平成25年 都市計画マスタープランの市民アンケート調査

【課題】

◇発生集中量の減少の顕在化している状況



◇菟田野地域の活性化のため、交流人口の減少を如何にしてとどめるか

◇増加する高齢者の移動を如何にして支援し、活動の活発化を図るか

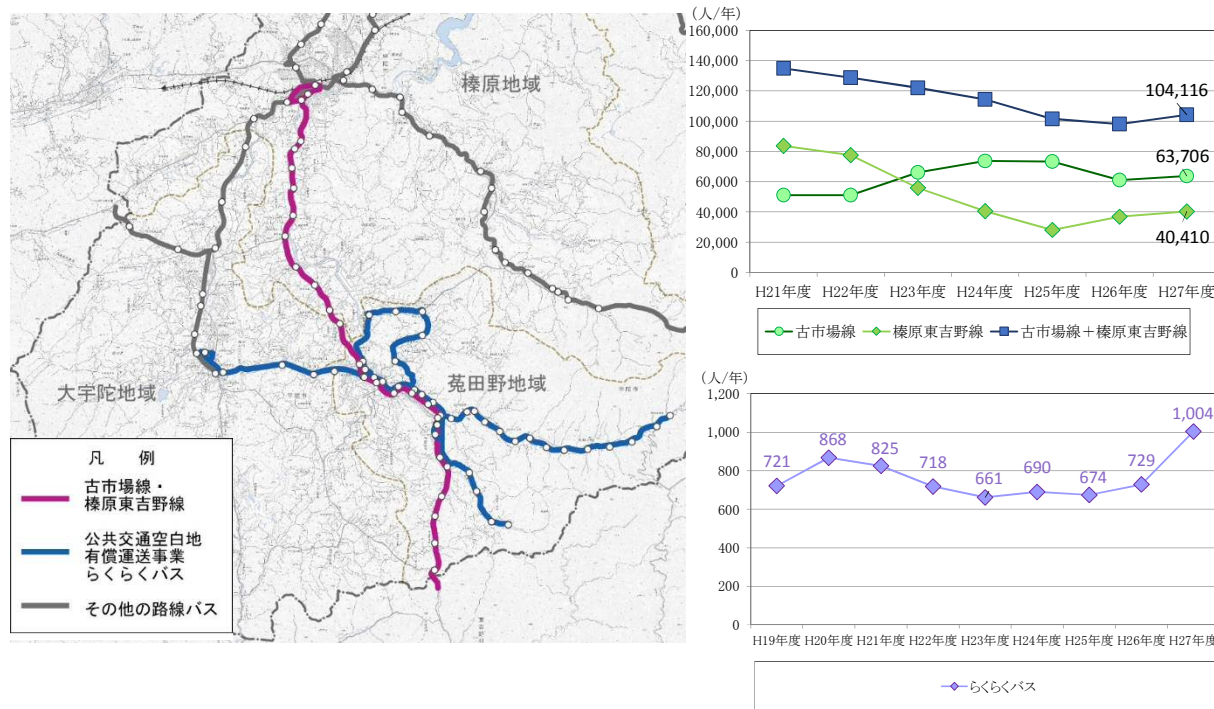
◇年少人口の減少への対策として、子育て支援施設の充実など

3-1 生活面からの現状と課題

(4) 公共交通

- ・うたの古市場地区には、**榛原駅から菟田野を連絡する古市場線が16.5回/日**（榛原東吉野線を含む）、榛原駅から東吉野村役場を連絡する榛原東吉野線が6.5回/日運行されている。また、**公共交通空白地有償運送事業のらくらくバスが5便/日運行**されている。
- ・平成27年度のバスの利用者数は、古市場線63,706人/年、榛原東吉野線40,410人/年、らくらくバス1,004人/年となっている。

＜対象地区周辺のバス路線＞



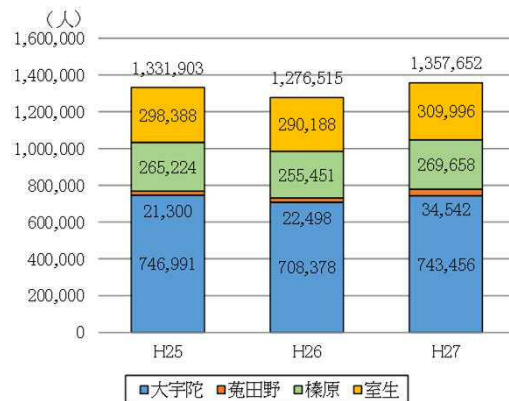
【課題】

- ◇利用者の減少に伴う、バス交通のサービス低下が懸念される状況への対応
- ◇大宇陀地域と連絡するらくらくバスの維持と利便性の向上方策の検討

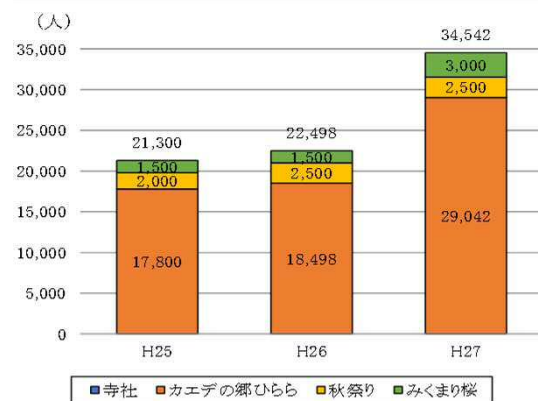
3-2 観光面からの現状と課題

- ・菟田野地域の観光入込客数は、平成27年では約34,500人/年と、前年よりも約12,000人/年の増加している。しかしながら、市全体の3%にとどまっている。
- ・施設・イベント内訳をみると、カエデの郷ひらが29,000人で8割を占めている。次いでみくまり桜の3,000人、秋祭りの2,500人となっている。
- ・月別にみると、春は4月のみくまり桜、秋は10月秋祭りがあり、**春（4～5月）と秋（10～11月）が観光のピーク**になっている。

<宇陀市の観光入込客数の推移>



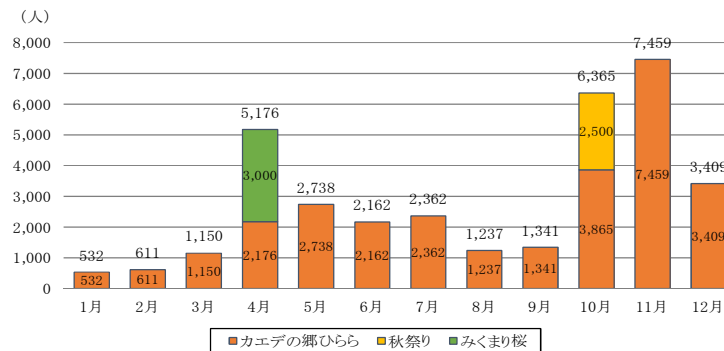
<菟田野地域の観光入込客数の推移>



<菟田野地域の観光入込客数の月別推移（平成27年）>



みくまり桜



【課題】

◇他地域に比べ少ない観光入込客の増加による地域の活性化

◇菟田野地域には、様々な地域資源があるが、観光に十分に活かされていない状況の改善。



◇集客可能な地域資源の再発見と、その活用方法の検討

◇地域資源の相互の連携による集客力の向上

◇通年で集客できる取組や、滞在時間の延長をめざした取組の検討

3-2 観光面からの現状と課題

【奈良カエデの郷ひらら】

- ・奈良カエデの郷ひららは、約1,200種のカエデと、旧宇太小学校の木造校舎を活用した施設で、平成25（2013）年にオープンし、年間2万人の集客力がある。
- ・園内には、木造校舎、カエデ公園、カエデ直売所、カフェ、お土産コーナー、地場産製品紹介コーナーなどがある。教室は各種団体研修やイベントに利用、最近では映画やコスプレの撮影会にも利用されている。

<奈良カエデの郷ひらら>



資料：奈良カエデの郷ひららホームページなど

【宇太水分神社】

- ・宇太水分神社は、大和の東西南北に祀られた四水分神社のうち東に当たる神社とされる。鎌倉時代に建造された本殿は昭和29年に国宝の指定を受けている。毎年10月には例大祭（みくまり祭り）が行われている。
- ・宇陀市内には他に2つの水分神社があり、榛原下井足の宇太水分神社が「下社」、菟田野上芳野の惣社水分神社が「上社」と呼ばれている。

<宇太水分神社>

<みくまり祭り>



【サイクリングルート】

- ・うたの古市場地区には、広域的な奈良まほろばサイクリングルートと、宇陀市レンタサイクルのモデルコース（芳野川沿い）がある。

【課題】

[奈良カエデの郷ひらら]

◇滞在時間が短いこと、秋と春の観光シーズン以外の集客力が弱いことへの対応

◇旧校舎の維持管理のための運営改善が課題

[宇太水分神社]

◇広域圏からの集客拠点としての宇太水分神社の更なる活用の工夫

[サイクリングルート]

◇芳野川沿いのモデルコースには、ところどころ通行しにくい箇所、分かりにくい箇所があり、ルート整備・改善が必要

3-2 観光面からの現状と課題

【古事記・日本書紀の地域資源】

- ・宇陀の地は、**神武天皇の東征ルート**として知られており、**菟田野地域の各所に遺跡や顕彰碑**などが建てられている。また、記紀万葉プロジェクト事業として各種イベント等も実施されている。

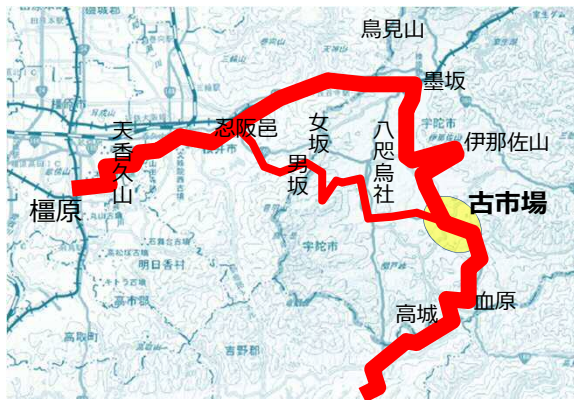
【うたの古市場門前町の地域資源】

- ・伊勢本街道と和歌山街道を結ぶ道筋に立地し、宇太水分神社の**門前市**として発展した。門前町には、**多くの歴史的建物**が残されている。

<神武天皇東征>

- ・日向から大和に攻め込む際、難波津へ軍船を進めた神武天皇らは、生駒山を越えて大和に攻め込んだが、長髓彦の反撃を受けた。このため、紀伊半島を迂回して熊野に上陸するという作戦に変更した。
- ・この後、神武天皇らは、八咫鳥の導きによって、鷲家川をさかのぼり佐倉峠を越え、宇陀へと入った。

<神武天皇東征ルート>



<うたの古市場門前町>

- ・うたの古市場は、伊勢本街道と和歌山街道を結ぶ道筋に立地し、宇太水分神社の**門前市**として発展。
- ・古くは単に市場と称していたが、宇陀松山城下に商業が移されたことに伴い、古市場と改称。
- ・明治に入って宇陀郡・吉野郡の木材集散地、商業の中心地として発達。

<うたの古市場門前町>



【課題】

[地域資源]

◇菟田野地域の各所に歴史的資源が残されているが、有効に活用されていない。

◇地域の誇りとなる歴史文化の地域活性化および観光振興への活用方策の検討

◇旧街道沿いの歴史的建物および街並み景観を活かすための建物の保全と活用方策の検討

◇芳野川や里山の自然資源を活かすための環境保全と活用方策の検討

3-3 産業面からの現状と課題

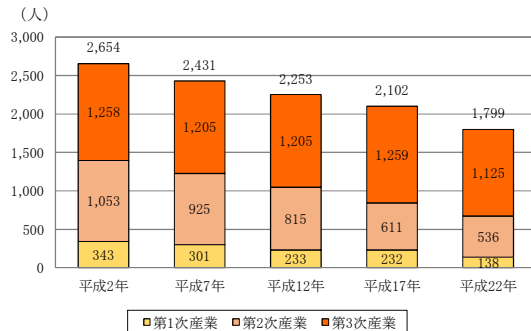
(1) 就業者数の推移

- ・菟田野地域では、市全体と同様に減少傾向にあり、平成22年では約1,800人（市全体の13%）となっている。

(2) 毛皮革産業

- ・菟田野地域の地場産業である毛皮革産業の推移をみると、昭和50年～平成2年頃がピークであり、製造品出荷額は近年横ばい傾向で、平成25年では15.2億円/年となっている。事業所数、従業者数は、減少傾向にある。

<菟田野地域の就業者数推移>

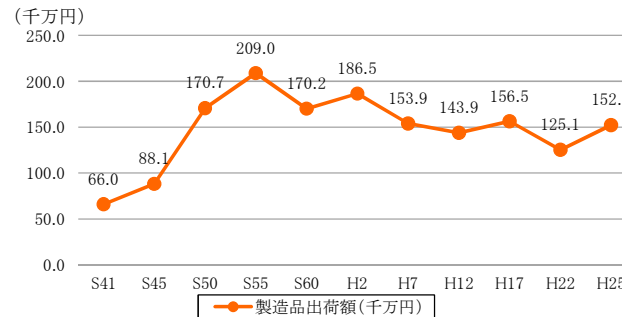


注) 合計は「分類不能の産業」を除く。
資料：総務省統計局 国勢調査

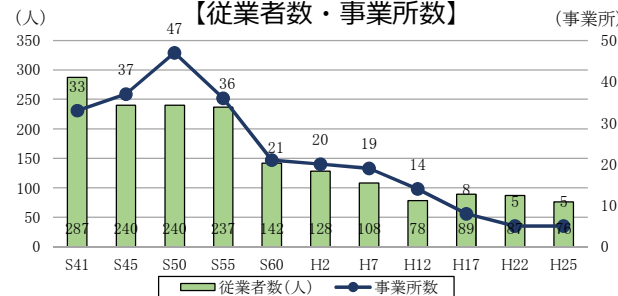


- ・毛皮革産業は、毛皮、鹿革、剥製、筆毛の4業種に大別される。鹿革の出荷高は、全国シェアの95%以上、毛皮も45%のシェアを誇っている。

<菟田野地域の毛皮革産業の推移>



【従業者数・事業所数】



注1) 平成17年以降は、従業者4人以上の事業所のデータ。
注2) 平成22年以降は、宇陀市全体のデータ。
資料：奈良県統計書、奈良県統計年鑑

【課題】

- ◇毛皮革産業など地場産業に携わる事業所、従業者が減少傾向にあり、如何にして、地場産業の活性化を図るかが課題



【毛皮革産業】

- ◇毛皮革産業の新たな需要の創出方策の検討が必要
- ◇毛皮革産業を担う人材（目利きのできる人材）の育成が必要
- ◇業界全体でのインターネットを使った取引の拡大への取組が必要

3-3 産業面からの現状と課題

【宇陀市菟田野産業振興センター】

- ・宇陀市菟田野産業振興センターは、平成元年に**菟田野地域の産業振興の拠点として地域活性化や情報発信基地**としての役割を果たすべくつくられた施設である。
- ・商品企画、生産から小売りに至るまで、**総合的な機能を持つ毛皮革産業を支援するために必要な要素を備えたコミュニティセンター**でもある。
- ・技術的な向上を図る研究開発施設、毛皮革製品への認識を高めるためのPRスペースや、**イベント開催のための多目的ホール**を有している。

＜産業振興センター＞



【課題】

◇産業振興センターは、毛皮革産業振興の拠点施設であるが、産業振興に向けて更なる活用が望まれる。



◇毛皮革産業のPR力強化のための産業振興センターの活用方策の検討

◇「うたの」をブランド名として浸透させるためのPR方法の検討

◇毛皮革産業の新たな需要の創出方策の検討

3-3 産業面からの現状と課題

(3) 農林業

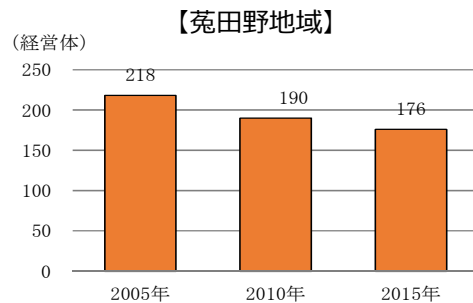
【高原野菜】

- 菟田野地域の地場産業の1つとして、高原野菜があげられる。だいこん、ほうれん草、はくさいなどの野菜が生産されている。しかしながら、農業経営体数は減少傾向にあり、高齢化も進んでいる。

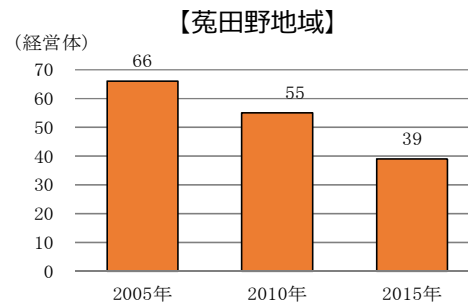
【銘木】

- 菟田野地域は古くから吉野杉の産地で、木造住宅の桁や床柱等銘木を生産から製品まで一貫生産し販売している。
- 林業においても、林業経営体数は減少傾向にあり、高齢化も進んでいる。

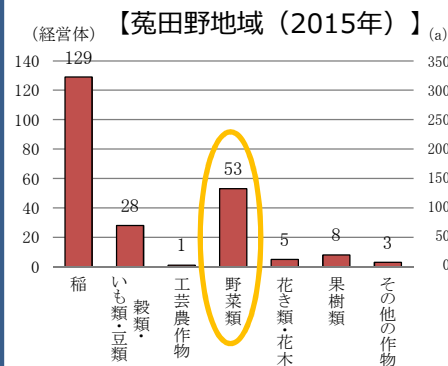
＜農業の経営体数の推移＞



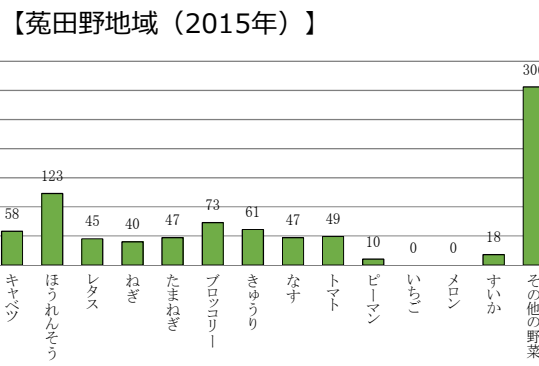
＜林業の経営体数の推移＞



＜作物別作付（栽培）経営体数＞



＜野菜類の作付面積＞



【課題】

[高原野菜]

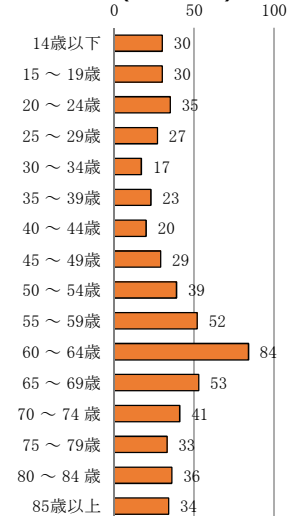
- ◇農業従事者の高齢化と後継者不足
- ◇特産品のブランド化の検討など

[銘木]

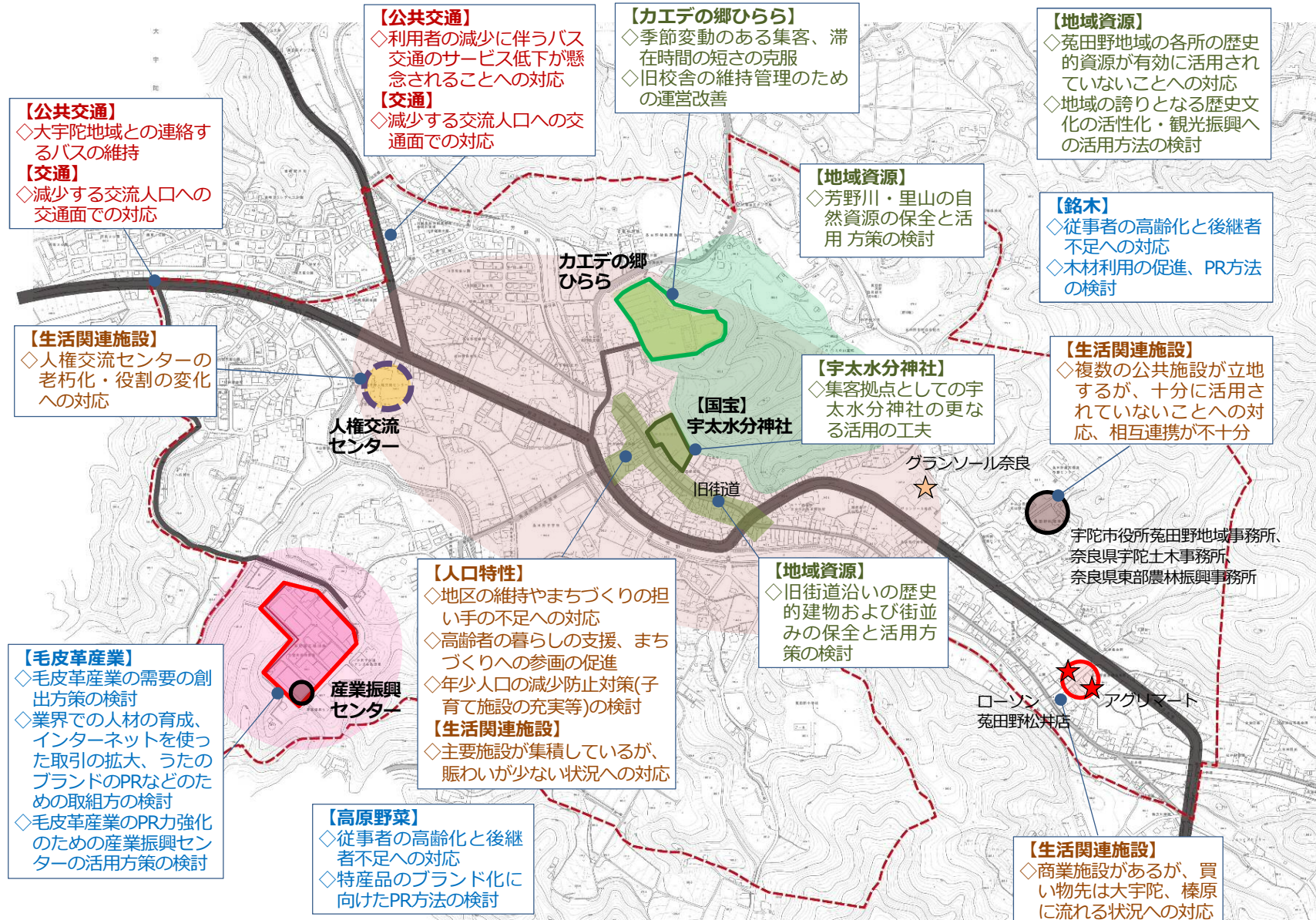
- ◇林業従事者の高齢化と後継者不足
- ◇木材利用の促進、PR展開方策の検討

＜販売農家年齢別世帯人員数＞

【菟田野地域(2015年)】 (人)



3-4 まちづくりの課題図



4. まちづくりのコンセプトと基本方針

4-1 コンセプト

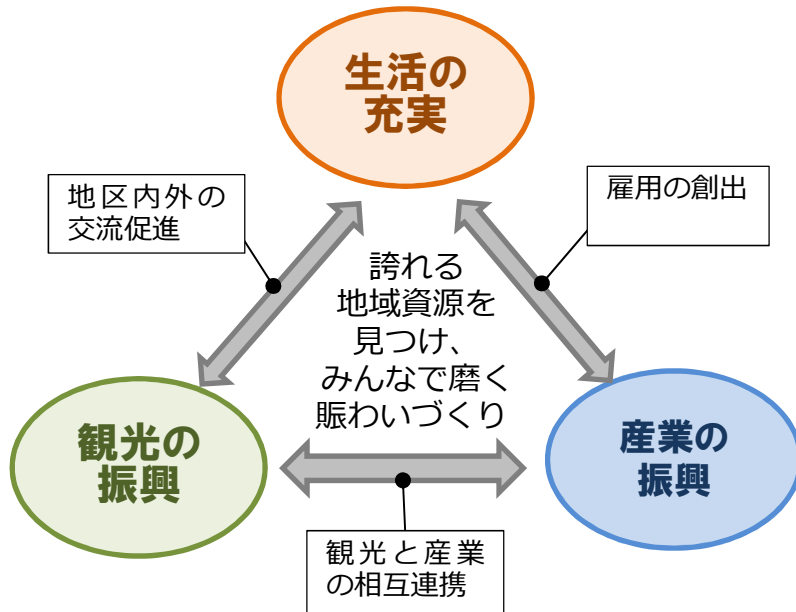
【うたの古市場周辺地区まちづくりコンセプト】

悠久の郷“うたの”再発見!!

～誇りある地域資源を見つけ、みんなで磨く賑わいづくり～

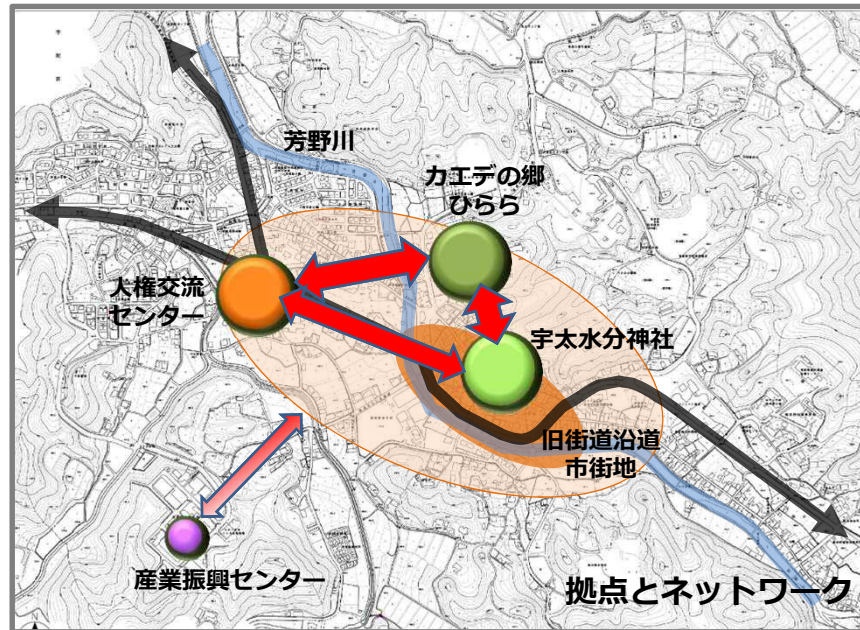
- ・菟田野地域は神武伝承の舞台となり、伊勢本街道と和歌山街道を結ぶ古くからの市場が形成されるなど悠久の歴史・文化を育んできた地域であり、誇りある地域資源（史跡・遺跡、文化、産業、建築物、自然景観など）が数多く残されている。これらの地域資源をもう一度見直し、まちの活性化に活かすため、地域全員の力で資源を磨き上げ、まちづくりを進めていくことをねらいとしたコンセプトとした。

【生活・観光・産業の相互連携の考え方】



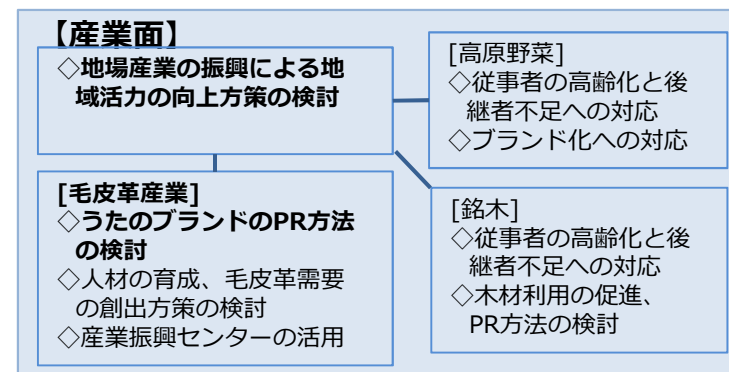
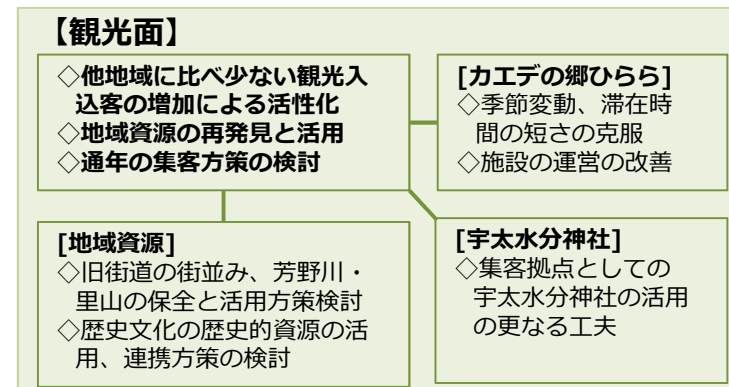
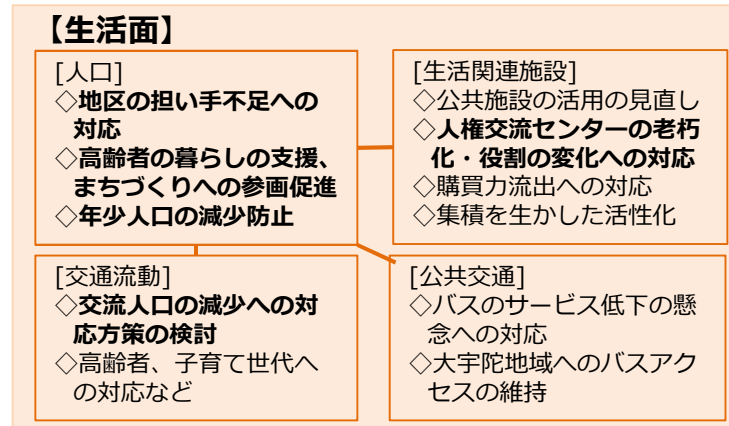
- ・「悠久の郷“うたの”再発見!!～誇りある地域資源を見つけ、みんなで磨く賑わいづくり」を、生活・観光・産業が三位一体（相互連携）になりまちづくりを進める。

【うたの古市場周辺地区の構造】

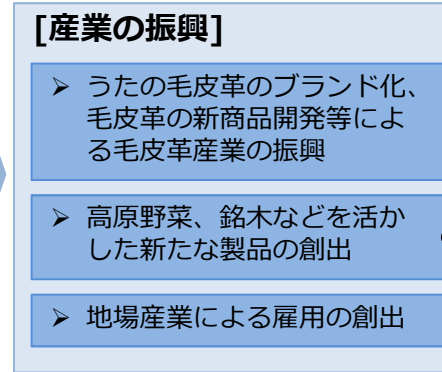
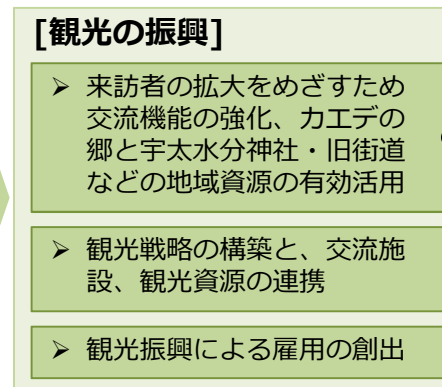
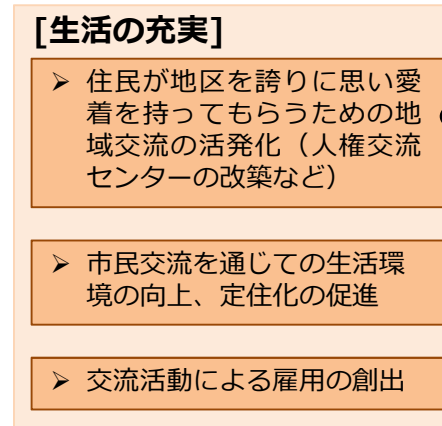


4-2 まちづくりの方針

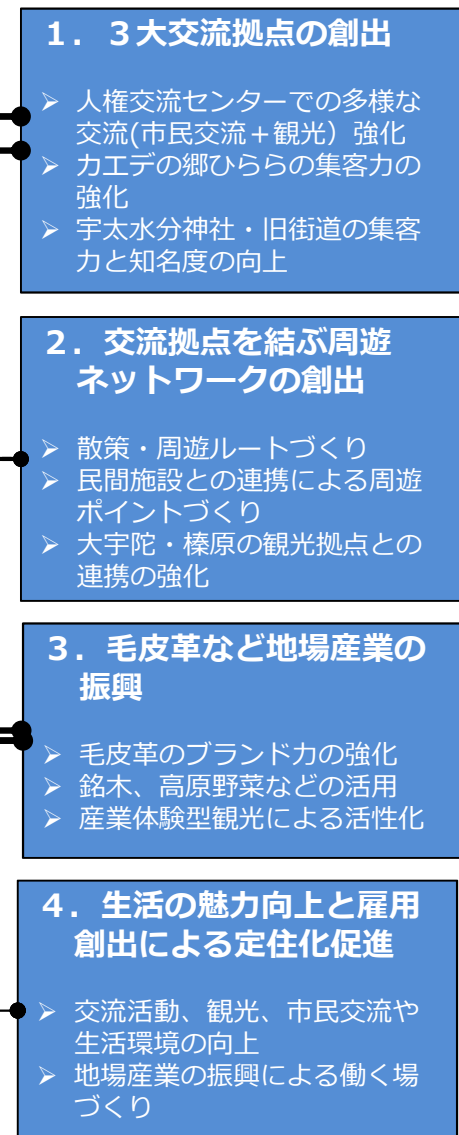
<取組むべき課題>



<施策の方向性>



<まちづくりの施策方針>



4-3 まちづくりの施策体系

施策方針	取組施策	取組方針
1. 3大交流拠点の創出	(1)人権交流センターの改築に伴う交流の多様化	①人権交流センター改築による多様なニーズに対応可能な地域交流拠点の創出 ②人権交流センター改築に合わせた進入路改善によるアクセス性の向上
	(2)カエデの郷ひららの集客力の強化	①旧校舎を活かした各種イベントによる集客力の向上 ②里山遊歩道の創出による集客力の向上
	(3)宇太水分神社、旧街道の知名度・集客力の強化	①宇太水分神社の「水・縁結び」などを活かした集客力の向上 ②旧街道の舗装整備などによる散策ルートの創出
2. 交流拠点を結ぶ周遊ネットワークの創出	(1)散策ネットワークの創出	①芳野川沿いの撮影スポットなどの充実 ②人権交流センターを玄関口とした周遊の拡大
	(2)多様な周遊ポイントづくり	①グランソール奈良など民間施設との連携による周遊拠点づくり
	(3)近隣地域との観光連携の強化	①大宇陀・榛原の観光拠点との連携の強化 ②サイクリングなどの周遊ネットワークの強化
3. 毛皮革など地場産業の振興	(1)毛皮革工芸のまちの魅力発信	①毛皮革の新製品の開発、アンテナショップ等の設置 ②毛皮革製品のブランド化
	(2)銘木、高原野菜などの活用	①銘木、高原野菜などを活かした新たな商品の開発
	(3)観光との連携による活性化	①毛皮革や木工品体験ツアーなど産業体験型観光による活力の向上
4. 生活の魅力向上と雇用創出による定住化の促進	(1)市民交流の充実および生活環境の向上	①年間を通じた交流・観光イベントの開催 ②こども園の整備など子育て環境の充実による定住・移住の促進 ③路線バスの利用促進などによるバス交通の維持・充実
	(2)地域内での働く場の創出	①地場産業と観光振興が連携した新たな雇用の創出

4-4 まちづくり構想図

1. 3大交流拠点の創出

2. 交流拠点を結ぶ周遊ネットワークの創出

3. 毛皮革など地場産業の振興

4. 生活の魅力向上と雇用創出による定住化の促進

